

大藪遺跡・大藪城跡

2012年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

大藪遺跡・大藪城跡

2012年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様幅広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、道路整備事業に伴う大藪遺跡・大藪城跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

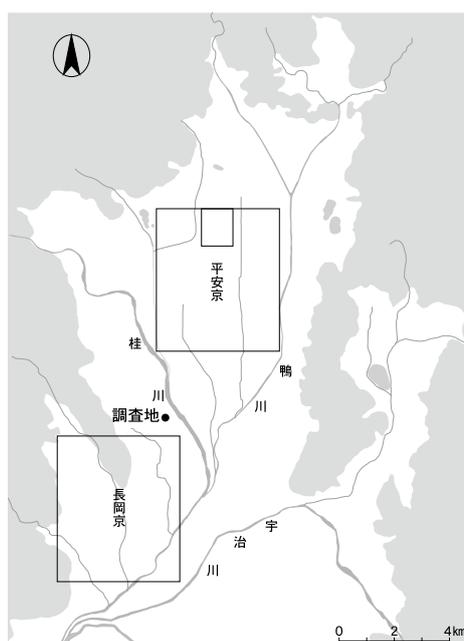
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

平成24年9月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 大藪遺跡・大藪城跡（文化財保護課番号 09 S 513）
- 2 調査所在地 京都市南区久世大藪町地内
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 門川大作
- 4 調査期間 2012年7月9日～2012年8月2日
- 5 調査面積 102.1㎡
- 6 調査担当者 尾藤德行
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「久世」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 種類ごとに通し番号を付し、土器類は番号のみとしたが、金属製品は「金」、木製品は「木」をそれぞれ付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 尾藤德行
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。



(調査地点図)

目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 位置と環境	3
(2) 周辺の調査	5
3. 遺 構	6
(1) 基本層序	6
(2) 遺構の概要	6
(3) 江戸時代の遺構	6
(4) 室町時代の遺構	12
(5) 長岡京期から平安時代の遺構	12
4. 遺 物	14
(1) 遺物の概要	14
(2) 土器類	14
(3) 瓦類	17
(4) 金属製品	17
(5) 木製品	18
5. まとめ	19

図 版 目 次

図版1	遺構	1	室町時代全景（北から）
		2	土坑30遺物出土状況（北東から）
図版2	遺構	1	溝5（北から）
		2	溝5遺物出土状況（北から）
		3	溝5北壁断面（南西から）
図版3	遺物	出土土器	

挿 図 目 次

図1	調査前全景（北から）	1
図2	作業状況（南から）	1
図3	調査区配置図（1：500）	2
図4	大藪小学校の児童見学状況（北から）	2
図5	調査区および周辺の調査位置図（1：5,000）	3
図6	遺構平面図 [江戸時代]（1：100）	7
図7	調査区断面図1（1：50）	8
図8	調査区断面図2（1：50）	9
図9	溝43実測図（1：50）	10
図10	土坑2・18・28実測図（1：50）	10
図11	堀12（北東から）	11
図12	遺構平面図 [室町時代]（1：100）	11
図13	土坑30実測図（1：50）	12
図14	遺構平面図 [長岡京期]（1：100）	13
図15	土器実測図1（1：4）	15
図16	土器実測図2（1：4）	15
図17	土器実測図3（1：4）	16
図18	銭貨拓影（1：1）	17
図19	銭貨	17
図20	木製品実測図（1：2）	18
図21	遺構変遷図 [西半]（1：2,000）	19
図22	遺構変遷図 [東半]（1：2,000）	20

表 目 次

表1	周辺調査一覧表	4
表2	遺構概要表	6
表3	遺物概要表	14

大藪遺跡・大藪城跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯

調査地は、国道171号線の東約400mの京都市南区久世大藪町地内に所在する。今回の発掘調査は、国道171号線と国道1号線を結ぶ都市計画道路（3・3・132向日町上鳥羽線）整備事業に伴い京都市建設局道路建設部道路建設課からの委託を受け実施した埋蔵文化財発掘調査（その4）である。2010年4月から2011年3月にかけて実施した発掘調査（その1～3、表1-16～18）に続く調査で、大藪の集落内を南北に縦断する大藪街道（市道久世20号線）と都市計画道路との交差点部分の拡張工事に伴い実施したものである。『京都市遺跡地図』¹⁾では、当該地は、弥生時代から平安時代にかけての集落遺跡である大藪遺跡、および中世の城館跡である大藪城跡に相当する。

調査に先立ち、京都市建設局道路建設部道路建設課、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という。）と財団法人京都市埋蔵文化財研究所で協議し、調査区の位置の確定などの協議を実施した。

(2) 調査の経過

調査は、北隣接地への進入路の確保・安全フェンス設置などの付帯工事ののち実施した。重機で現地表面から-0.6～0.8mの褐色砂泥層上面まで掘削し、その後は人力掘削によりすすめた。遺構は、ほぼ同一面で検出したが、第1面として江戸時代、第2面として江戸時代前期から室町時代、第3面として平安時代から長岡京期の遺構に分けて調査・記録した。第3面で南北溝と小穴を検出した。調査地は長岡京の北端から約220m北に位置するが、この溝は、条坊跡を延長した位置にあることから、長岡京の条坊に関連した遺構である可能性が考えられた。また、2010年度その3調査（表1-18）では褐色砂泥相当層の下面で縄文時代の土器や炭層が検出されており、一部断割調



図1 調査前全景（北から）



図2 作業状況（南から）

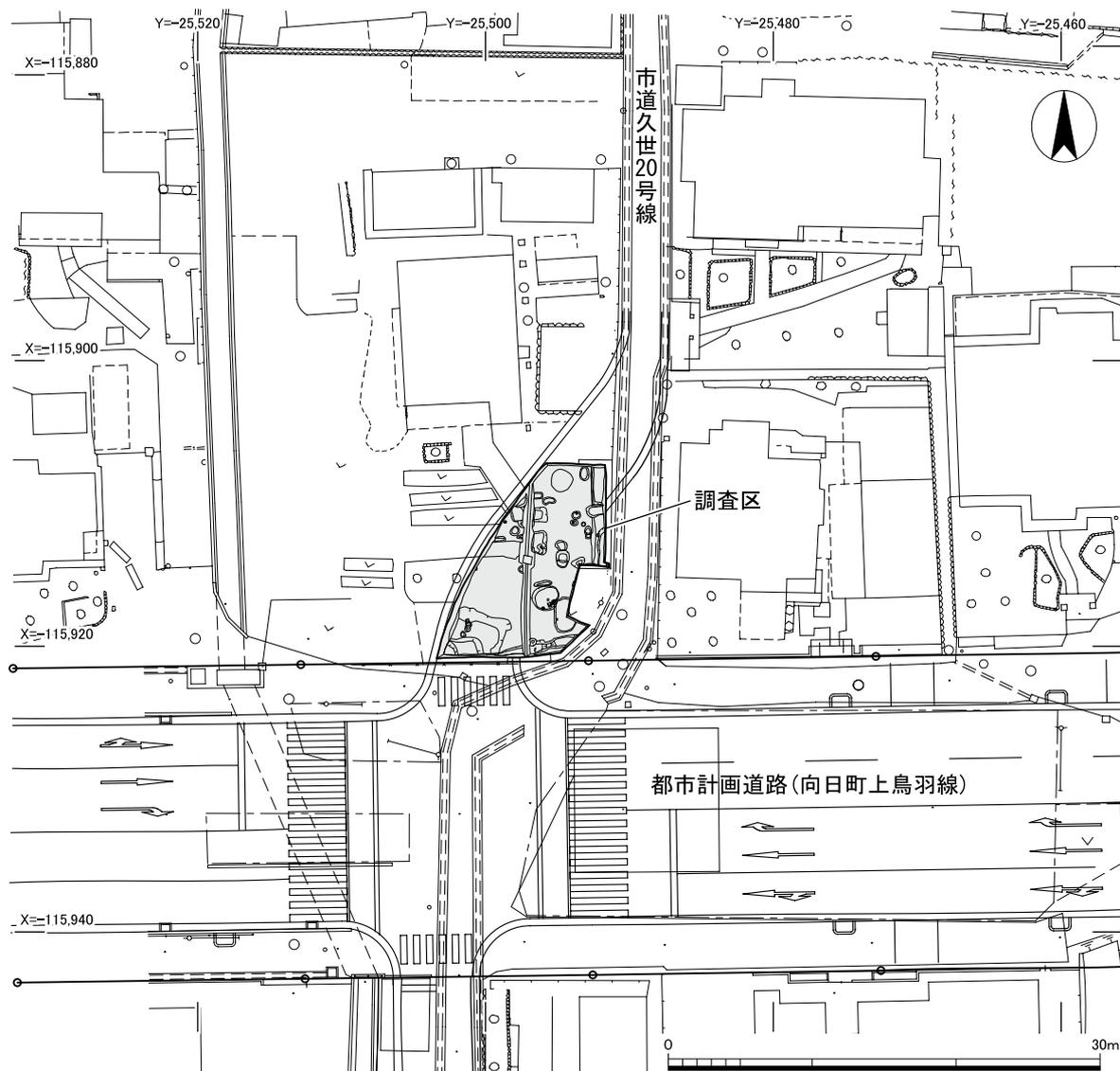


図3 調査区配置図 (1 : 500)



図4 大藪小学校の児童見学状況 (北から)

査を行ったところ、現地表下約0.9mで炭をやや多く包含する土層を確認した。

調査は、各面で写真撮影、図面作成などの記録を行い、調査後に埋め戻した。その後、フェンスを撤去し、調査を終了した。

調査中は適宜、文化財保護課の臨検を受けた。また、検証委員である鈴木久男氏(京都産業大学教授)、高正龍氏(立命館大学教授)の視察を受けた。

また、普及啓発事業の一環として、大藪小学校の児童約60名の現場見学会を実施した。

註

1) 『京都市遺跡地図台帳【第8版】』京都市文化市民局 2007年

2. 位置と環境

(1) 位置と環境

調査地は、京都市の南西部、桂川右岸の大藪集落内に位置する。西を向日丘陵、東を桂川に挟まれた、桂川の後背湿地から微高地に移る地点で、地形分類図によれば、谷底平野・氾濫平野に分類される¹⁾。

調査地は、大藪遺跡の東部、および大藪城跡の中央部に位置する。大藪集落は、西国街道につながる古くからの南北道である大藪街道（市道久世20号線）沿いにある南北に長い集落である。大藪の地名は、暦応三年（1340）の上久世荘絵図に「本久世 大ヤブ²⁾」と記される。その後、地元有力者により大藪城が造営されたとあるが、築造年代、存続期間などは不明である。

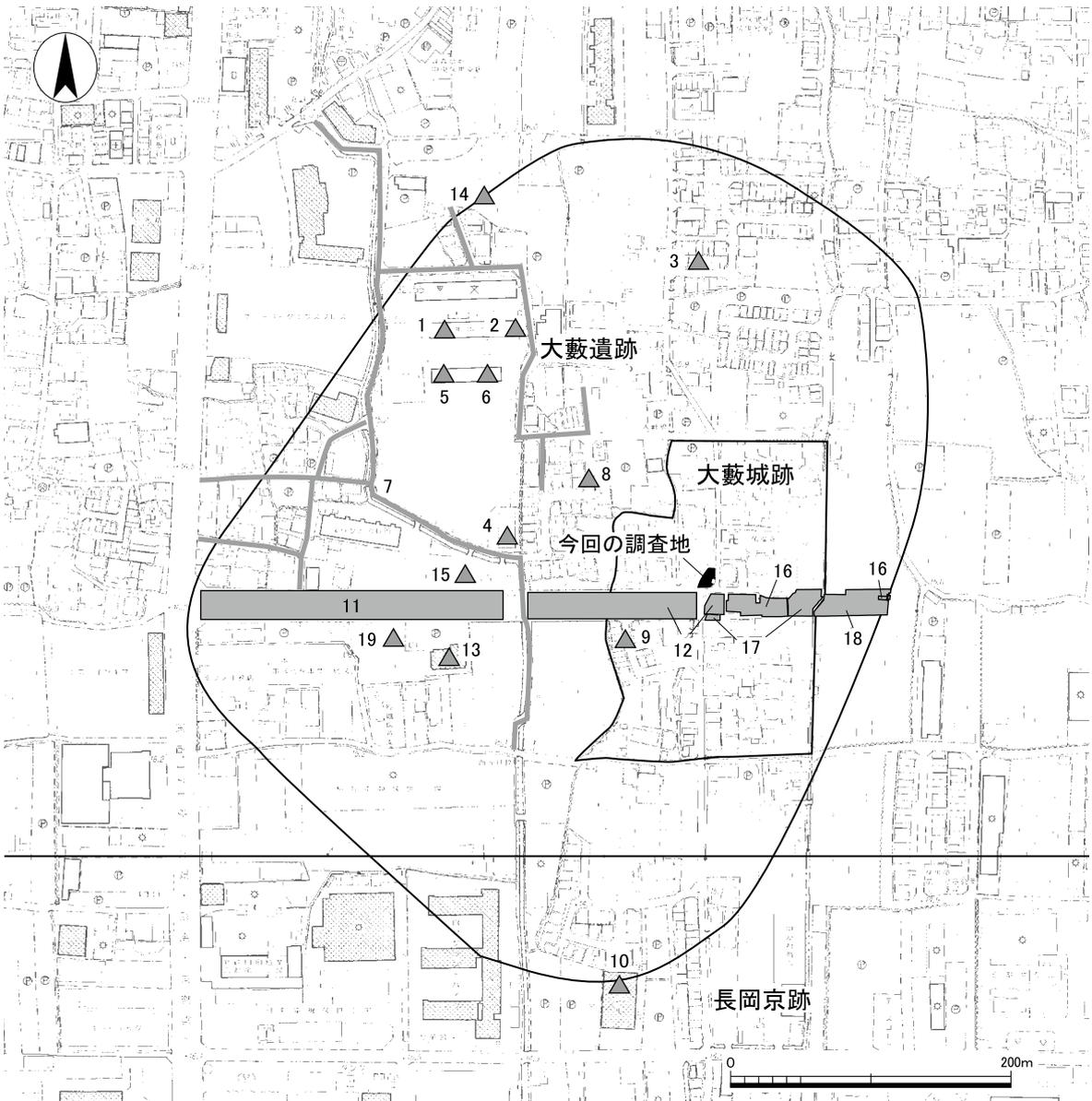


図5 調査区および周辺の調査位置図（1：5,000）

表1 周辺調査一覧表

No.	調査種類 面積 (㎡)	調査期間	主な遺構	主な遺物	文献
1	発掘 100	1972.07.31 ～08.24	弥生～鎌倉：北西から南東方向の溝状 流れ、杭列。奈良～長岡：祭祀遺構。	弥生中期～後期：弥生土器。古墳前期：土師 器。中期：須恵器。奈良～長岡：土師器、須 恵器、木製品、土馬、人面土器、馬の歯・骨 など。平安：土器類、瓦。鎌倉：土器類。	梅川光隆『大藪遺跡発掘調査報告』 1972 六勝寺研究会
2	発掘 130	1979.07.31 ～08.20	弥生：ピットおよび溝状の遺構。中世 ：溝5条。	弥生：弥生土器。	『京都市域における埋蔵文化財の 発掘・試掘・立会調査一覧』1981
3	発掘 520	1980.12.04 ～1981.01.20	弥生：川1条、杭1基。長岡：溝3条。 鎌倉：建物5棟以上（柱跡は約500基）、 溝6条、井戸19基、土坑4基。	縄文：縄文土器。弥生：弥生土器、木製品、 石包丁、石剣、石匙。古墳：土器類、木製品 有孔円板。長岡：土器類。平安：土器類。鎌 倉：土器類、瓦。江戸：土器類。	平田 泰『大藪遺跡発掘調査概要』 昭和55年度
4	発掘 180	1981.08.11 ～08.19	弥生～古墳：流路か。長岡：遺物包含 層。	弥生～古墳：弥生土器、土師器、自然木。長 岡：土師器、須恵器、瓦。	磯部 勝「大藪遺跡」『昭和56年 度 京都市埋蔵文化財調査概要 (発掘調査編)』
5	発掘 341	1983.07.11 ～10.05	奈良～平安中期か：流路および流路に 伴う杭列（杭列は奈良時代と推定）。	縄文：縄文土器。弥生後期：弥生土器。古墳 ：土師器、須恵器、管玉。奈良：土師器、須 恵器、土製品。平安：土器類多数、人面土器 竈、瓦。鎌倉～室町：土器類多数、木製品。	堀内明博・鈴木廣司「大藪遺跡」 『昭和58年度 京都市埋蔵文化財 調査概要』
6	発掘 157.5	1985.05.07 ～06.14	時期不明：流路、それに伴う杭列、土 坑1基。	弥生：弥生土器。平安：土器類、墨書土器 「浄」（須恵器）、瓦、木製品（人形・削りか け・曲物）。中世：土器類。	上村和直・久世康博「大藪遺跡」 『昭和60年度 京都市埋蔵文化財 調査概要』
7	立会 1335.5	1986.12.10 ～1987.07.21	弥生：土坑、溝、自然流路。古墳：自 然流路。奈良：自然流路、杭列。長岡 ：溝。平安：土坑、溝、自然流路。鎌 倉～室町以降：柱穴、土坑、溝（条里）。	弥生：弥生土器、木製品。古墳：土師器、須 恵器。奈良：土師器、須恵器、製塩土器、木 杭。平安：土器類多数、瓦、木製品。鎌倉～ 室町以降：土器類多数、木製品。	吉崎 伸「大藪遺跡・中久世遺跡」 『昭和62年度 京都市埋蔵文化財 調査概要』
8	発掘 485	1987.05.25 ～06.27	弥生後期：堅穴住居。奈良：自然流路、 護岸施設。鎌倉～室町：濠、小溝、土 坑。	弥生：弥生土器、石製品、柱根。古墳：土師 器、須恵器。奈良：土師器、須恵器、黒色土 器、木製品、杭。鎌倉：土器類、木製品（漆 器）。室町：土器類。	鈴木廣司「大藪遺跡」『昭和62年 度 京都市埋蔵文化財調査概要』
9	発掘 172	1988.10.29 ～12.01	鎌倉～江戸前期：掘立柱建物3棟、井 戸3基、土坑、溝、柱穴。江戸中期： 柱跡（柱穴・根石・礎石）、土坑、溝。	鎌倉：土器類。室町：土器類、金属製品（包 丁）。桃山～江戸：土器類、金属製品。	吉崎 伸「大藪遺跡」『昭和63年 度 京都市埋蔵文化財調査概要』
10	発掘 980	1990.01.05 ～03.23	弥生後期：堅穴住居4棟、方形周溝墓、 土坑、濠、溝、湿地状落込。古墳前期 ：堅穴住居。古墳前期～中期：掘立柱 建物、土壇墓、土坑、溝、小柱穴。長 岡：総柱建物（倉庫）、掘立柱建物、 柵。鎌倉～室町：土坑、暗渠溝。江戸 ：土壇墓、土坑、暗渠溝。	弥生：弥生土器、勾玉。古墳：土師器、須恵 器、管玉。長岡：土師器、須恵器。鎌倉～室 町：土器類多数。江戸：土器類。	鈴木廣司「長岡京左京一条三坊・ 大藪遺跡」『平成元年度 京都市 埋蔵文化財調査概要』
11	発掘 3925	1997.12.08 ～1999.04.15	弥生後期：堅穴住居、方形周溝墓、溝。 長岡：掘立柱建物、井戸、柵、溝。平 安後期：井戸、溝。室町：礎石建物、 掘立柱建物、井戸、堀、溝、土坑、河 川。江戸：井戸、溝、土坑。	弥生：弥生土器、石剣、石鏃、鋤、柱根、ガ ラス小玉。長岡：土師器、須恵器、瓦、木製 品、獣骨。平安後期：土器類多数、曲物、折 敷、漆器。江戸：土器類多数、位牌、下駄、 曲物、漆器。	西大條 哲ほか「大藪遺跡」『平 成10年度 京都市埋蔵文化財調査 概要』
12	発掘 1700	1999.07.06 ～2000.03.21	弥生後期：堅穴住居、柱穴。平安後期 ：土坑。鎌倉～室町：掘立柱建物、井 戸、土坑、堀、溝。桃山～江戸：掘立 柱建物、井戸、土坑、堀、溝。	縄文後期～晩期：縄文土器。弥生後期：弥生 土器。古墳：土師器、須恵器。奈良（長岡） ：土師器、須恵器、瓦。平安：土器類多数。鎌 倉～室町：土器類多数、土製品、木製品、金 属製品、石製品。桃山～江戸：土器類多数、 土製品、木製品、石製品、銭貨。	吉崎 伸ほか「大藪遺跡」『平成 11年度 京都市埋蔵文化財調査概 要』
13	発掘 490	2001.11.01 ～12.30	弥生後期：棟持柱を持つ3間×2間の 大型掘立柱建物。長岡：掘立柱建物3 棟、溝4条、柱穴多数。	弥生：弥生土器、石器、木製品（柱）。長岡： 土師器、須恵器、平瓦。	『大藪遺跡発掘調査報告書』大藪 遺跡発掘調査団・安西工業株式会 社調査部 2002年
14	発掘 390	2006.11.16 ～12.08	弥生：方形周溝墓。平安：土坑、溝。 室町以降：溝、建物。	弥生：弥生土器。平安：土器類。室町：土器 類。	『中久世遺跡・大藪遺跡』京都市 埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-19
15	発掘 295	2007.02.01 ～03.08	弥生後期：堅穴住居、溝、土坑、柱穴。 平安後期：柱穴。鎌倉：柱穴。室町： 建物、土坑、柱穴、溝、堀。江戸：溝。	弥生：弥生土器、石鏃、石剣、砥石、木製品 （柱根）。古墳：土器類。鎌倉：土器類。室町 ：土器類多数、瓦。江戸：土器類多数。	『大藪遺跡』京都市埋蔵文化財研 究所発掘調査報告 2006-32
16	発掘 760	2010.04.15 ～07.23	長岡：土坑。室町：建物、柵、井戸、 柱穴、堀、溝。江戸：溝、柱穴、畦。	弥生：石鏃。長岡：土師器、須恵器。室町～ 江戸初：土器類多数、瓦。江戸：土器類多数、 木製品、金属製品、石製品。	『大藪遺跡・大藪城跡』京都市埋 蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-9
17	発掘 411	2010.07.26 ～11.02	室町：建物、門、柵、井戸、柱穴、堀、 溝。江戸：耕作溝、溝、柱穴、水路、 土坑。	弥生：石鏃。長岡：土師器、須恵器。室町～ 江戸初：土器類多数、瓦、銭貨、木製品。江 戸：土器類多数、木製品、金属製品、石製品。	『大藪遺跡・大藪城跡』京都市埋 蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-13
18	発掘 854	2011.01.06 ～03.31	縄文：土坑。長岡：溝、井戸。室町： 建物、柵、井戸、土坑、溝。江戸：耕 作溝、溝、畦、土坑。	縄文：縄文土器。長岡：土師器、須恵器、緑 釉陶器、灰釉陶器、輸入磁器、瓦、木製品、 石製品。室町後期：土器類多数、木製品、金 属製品、石製品。江戸：土器類多数、瓦、木 製品、金属製品、石製品。	『大藪遺跡』京都市埋蔵文化財研 究所発掘調査報告 2010-18
19	発掘 190	2011.12.01 ～2012.01.04	弥生：溝、掘立柱建物、土坑。中世： 溝、柵、柱穴。	弥生：弥生土器、木製品（柱）。長岡：土師器 、瓦器。	「大藪遺跡」『京都市内遺跡発掘 調査報告』平成24年度 2013年3月 報告予定

(2) 周辺の調査 (図5・表1)

大藪遺跡・大藪城跡で実施された発掘調査・広域立会調査は、19箇所に及んでいる。

長岡京期の遺構には、祭祀遺跡、流路、掘立柱建物、溝などがある。1972年度調査(表1-1)では奈良時代から長岡京期の祭祀遺構、1980年度調査(表1-3)では東西溝3条、1983年度調査(表1-5)では奈良時代から平安時代の流路および杭列、1986年度調査(表1-7)では溝、1989年度調査(表1-10)では総柱建物・掘立柱建物・柵、1997～98年度調査(表1-11)では掘立柱建物・井戸・柵・溝、2001年度の大藪遺跡発掘調査団による調査(表1-13)では掘立柱建物3棟が東西方向に並んだ状況で検出されている。2010年度その1調査(表1-16)では土坑、2010年度その3調査(表1-18)では溝・井戸が検出されている。

そのうち今回と同様、京域の北側で、条坊に関連する可能性のある遺構の検出例は、1997～98年度調査(表1-11)と2010年度その3調査(表1-18)がある。1997～98年度調査では、長岡京左京東三坊坊間小路の北延長上に位置する南北方向の溝が検出された。2010年度その3調査では、長岡京左京東四坊坊間西小路の北延長上に位置する南北方向の東西両溝が検出された。

大藪城跡に関連する中世の遺構には、1988年度調査(表1-9)、1999年度調査(表1-12)、2010年度その1調査(表1-16)、2010年度その2調査(表1-17)があり、掘立柱建物、柱穴、柵、堀、溝、井戸、土坑などが検出されている。1999年度調査地の西端で検出された南北方向の堀は大藪城跡西限の堀、2010年度その2調査で検出された南北方向の堀は大藪城跡東限の堀と考えられる。

註

- 1) 「京都西南部」『土地分類基本調査 地形・地層地質・土じょう』 経済企画庁総合開発局国土調査課 1972年
- 2) 「大藪村」『史料 京都の歴史 第13巻 南区』 平凡社 1992年

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図7・8)

調査区の現地表は、標高約15.0mで、ほぼ平坦地である。基本層序は、調査区中央東部の南壁(図7-断面図3)・東壁断面(図7-断面図4)では、上から厚さ0.3m前後の盛土、その下は、厚さ約0.2m前後の江戸時代包含層であるにぶい黄褐色砂泥～灰黄褐色砂泥層(断面図33・34・44層)、厚さ約0.1m前後の中世包含層である褐色砂泥層(断面図38層)が堆積し、地表下約0.6～0.8m(標高14.55m)で褐色砂泥(断面図39層)の長岡京期の基盤層となる。さらに標高約14.2mでは、部分的に炭細片を含む暗褐色砂泥層(断面図48層)となる。2010年度調査では標高約14.0～13.7mで炭片・焼土を含む土坑や縄文土器片を採集しているが、今回は、遺物は採集できなかった。

(2) 遺構の概要

調査は、重機によって地表下約0.6mの中世の包含層まで掘り下げた。その後、人力作業で、第1面として江戸時代、第2面として江戸時代初頭から室町時代、第3面として平安時代の遺構の調査を行った。第1面とした江戸時代の面は、溝43や土坑41などの断面観察から、本来は標高約14.7mの土層33・34・44層の上で成立していることを確認した。時期不確定の遺構は、江戸時代の遺構とした。室町時代の遺構は標高約14.6mの断面図38層上面で検出した。室町時代の遺構には、土坑29・30、柱穴13・31がある。長岡京期から平安時代の面は標高約14.5mの断面図39層上面で検出した。遺構には、溝5、小穴20～22がある。遺構の総数は39基である。

(3) 江戸時代の遺構 (図6)

堀12、溝32・43、小穴3、土坑1・2・4・6～8・11・14～19・23～28・33～35・38・41・42がある。遺物の出土していない遺構は、層位および埋土から江戸時代の遺構と想定した。このうち、堀12、溝43、小穴3、土坑1・2・4・7・11・14～16・18・19・24・25・27・28・33・34などから江戸時代の遺物が出土している。以下、代表的な遺構について述べる。

溝43 (図9) 調査区南端で検出した。現存規模は、長さ6.7m、幅0.8m、深さ0.55mある。埋

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
長岡京期～平安時代	溝5、小穴	
室町時代	土坑30、柱穴13・31	
江戸時代	堀12、溝43・32、土坑2・18・28・41、小穴	

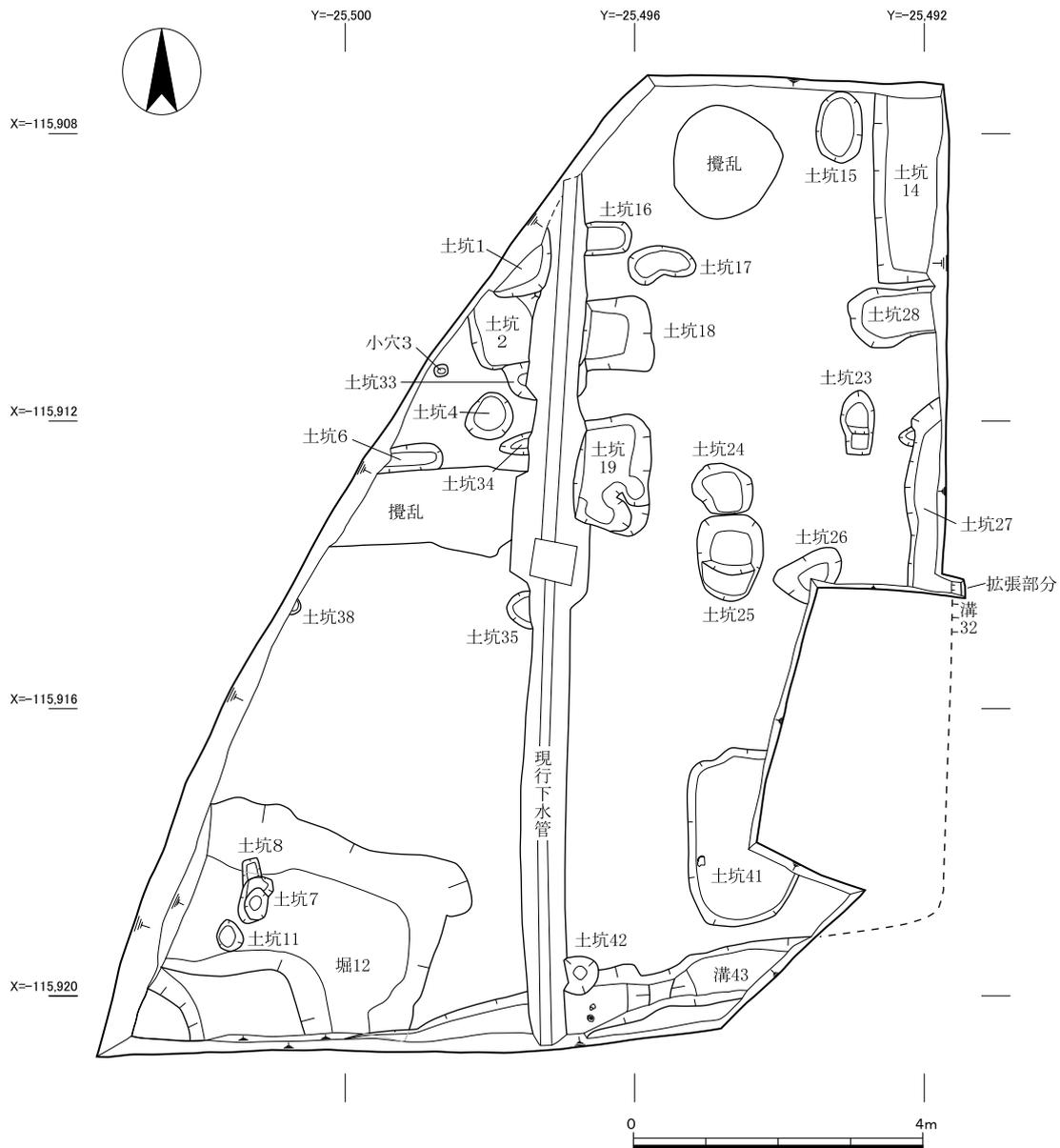


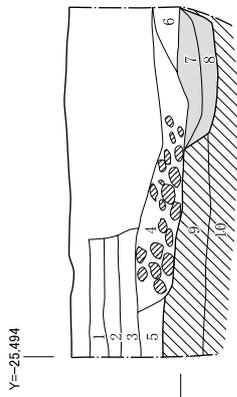
図6 遺構平面図〔江戸時代〕(1:100)

土は4層に分けられ、3層目は泥土と砂泥の互層堆積を示す。クランク状に曲がる現在の大藪街道と平行する溝である。東北東から西南西方向を示す。大藪街道に伴う側溝で、大藪街道に沿って次の溝32に繋がる可能性が考えられる。

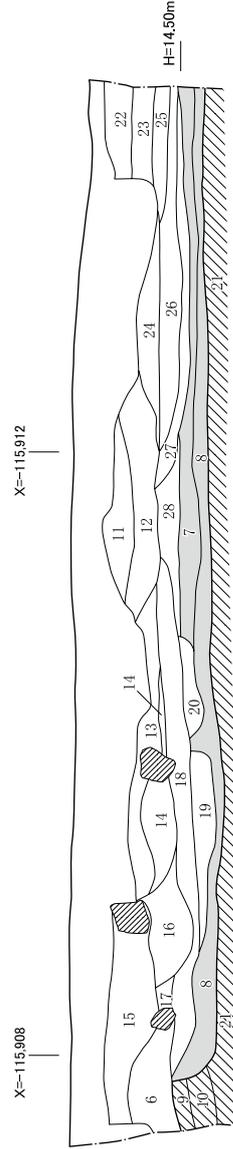
溝32 (図7 - 断面図3) 長岡京期の溝5の南壁断面拡張部で検出した南北溝(断面図3-29~31層)である。検出規模は南北約0.2m、幅0.2m、深さ0.45mある。調査区外の東側に続く。埋土は3層に分けられ、礫や砂礫の多い灰黄褐色粗砂層から泥砂・砂泥層が堆積する。遺物は出土していない。溝43に繋がる可能性が考えられる。

土坑2 (図10) 調査区の北西で検出した土坑で、北側は土坑1に削平されている。東側は下水管のため未調査である。長軸約1m、深さ0.35mある。土師器皿、染付碗などが出土した。江戸時代中頃。

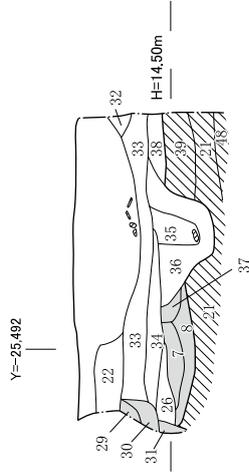
断面图 1 (北壁)



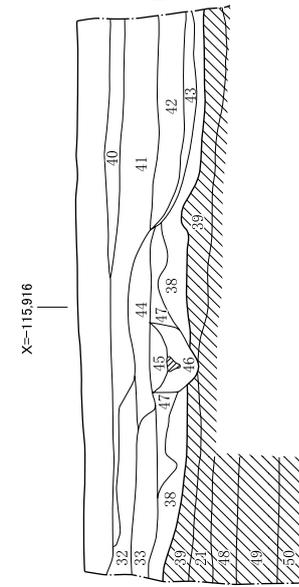
断面图 2 (東壁)



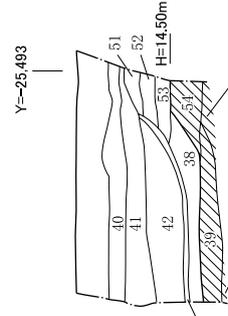
断面图 3 (南壁)



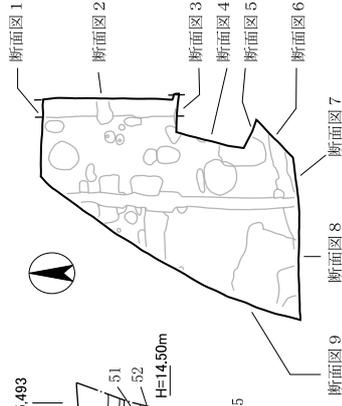
断面图 4 (東壁)



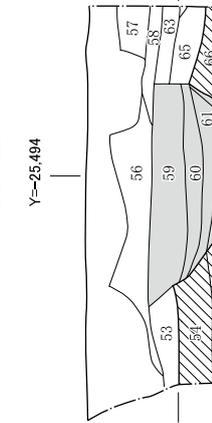
断面图 5 (北壁)



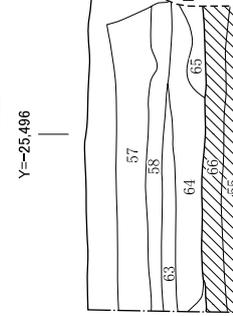
断面位置图



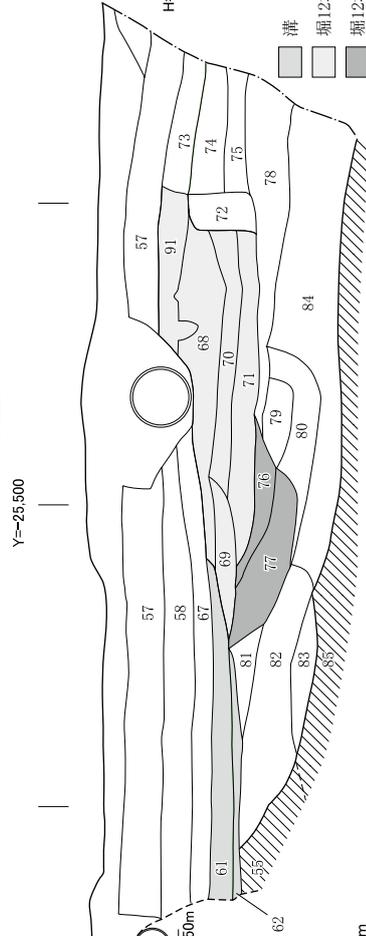
断面图 6 (南東壁)



断面图 7 (南壁)



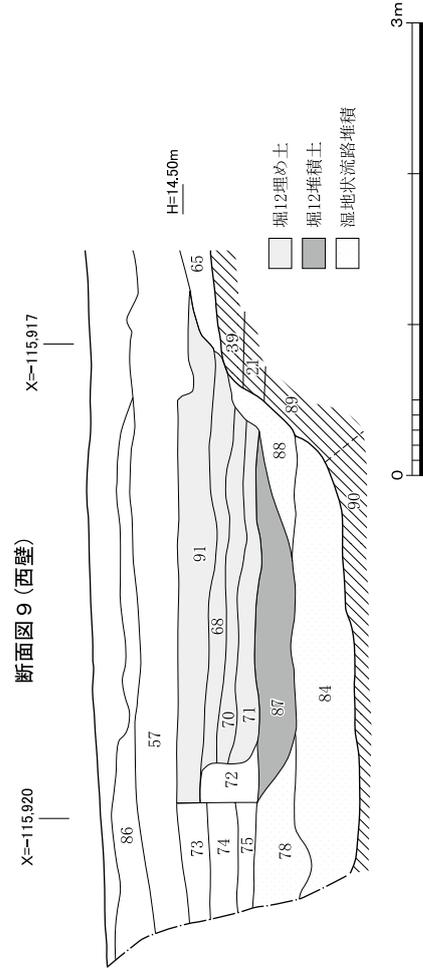
断面图 8 (南壁)



- 溝
- 掘12埋砂土
- 掘12堆積土
- 湿地状流路堆積



图 7 調査区断面图 1 (1 : 50)



- 断面図9 (西壁)
- X=115.920 X=115.917
- H=14.50m
- 堀12埋め土
堀12堆積土
湿地状流路堆積
- 57 10YR5/4~10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 炭混 10YR3/3暗褐色マンガン粒多量混 溝43
58 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 炭混 10YR3/3暗褐色マンガン粒多量混 溝43
59 10YR5/2灰黄褐色 10YR3/3暗褐色マンガン粒多量混 溝43
60 10YR5/2灰黄褐色 10YR3/3暗褐色マンガン粒多量混 溝43
61 10YR5/2灰黄褐色 10YR4/1褐灰色泥土 10YR3/1黒褐色砂泥五層堆積 溝43
62 2.5YR5/3黄褐色泥土 粘質 溝43
63 10YR5/1~10YR4/1褐灰色砂泥 粘質 炭混
64 10YR4/2灰黄褐色砂泥 粘質 7.5YR3/3暗褐色マンガン粒少量混
65 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 10YR3/3暗褐色マンガン粒多量混
66 2.5YR4/4オリーブ褐色砂泥 粘質 10YR3/3暗褐色マンガン粒少量混
67 10YR5/2灰黄褐色砂泥 粘質 10YR3/3暗褐色マンガン粒多量混
68 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 粘質 10YR4/6褐色マンガン粒多量混 堀12埋め土
69 10YR5/2灰黄褐色砂泥 粘質 10YR4/6褐色マンガン粒少量混 堀12埋め土
70 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 10YR4/6褐色マンガン粒中量混 堀12埋め土
71 10YR4/2灰黄褐色砂泥 粘質 10YR4/6褐色マンガン粒少量混 堀12埋め土
72 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 粘質 堀12層部
73 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 粗砂混 10YR3/3暗褐色マンガン粒中量混 堀12層部
74 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 粗砂混 礫φ1~5cm少量混 堀12層部
75 10YR4/2灰黄褐色砂泥 10YR4/4褐色マンガン粒混 堀12層部
76 5Y4/1灰色シルト 粘質 7.5YR4/6褐色マンガン粒混 堀12堆積土
77 5Y4/1灰色泥土 7.5YR4/6褐色マンガン粒混 堀12堆積土
78 10YR4/2灰黄褐色砂泥 粘質 礫φ5~10cm中量混
79 5Y4/1灰色シルト 粘質 礫φ5~10cm中量混
80 7.5Y3/2オリーブ黒色シルト 粘質
81 2.5YR5/3黄褐色砂泥 粘質 礫φ1~10cm少量混
82 10YR4/2灰黄褐色砂泥 粘質 礫φ1~10cm少量混
83 7.5YR3/2オリーブ黒色シルト 粘質
84 7.5Y4/1灰色シルト 粘質
85 2.5GY4/1暗オリーブ灰色シルト 粘質
86 耕土・10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 炭混
87 10YR4/2灰黄褐色砂泥 粘質 腐植土多い 堀12
88 10YR4/2灰黄褐色砂泥 粘質 10YR3/3暗褐色マンガン粒多量混
89 2.5YR5/3暗黄褐色泥土 粘質 10YR2/2黒褐色マンガン粒混
90 2.5YR5/2暗黄褐色泥土 粘質 89層がライイ化
91 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 炭混 10YR3/3暗褐色マンガン粒多量混 堀12埋め土

- 1 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 礫φ0.5~3cm多量混 (固くしまる)
- 2 2.5YR5/3暗褐色 10YR4/4褐色細砂 砂混混 (流れ堆積)
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 礫φ1~10cm少量混 (固くしまる)
- 4 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 礫φ5~20cm多量混 (近世以降)
- 5 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 10YR4/4褐色マンガン粒中量混
- 6 2.5YR4/3オリーブ褐色砂泥 粘質
- 7 2.5YR4/3オリーブ褐色泥土 粘質 溝5
- 8 2.5YR5/2暗灰黄色泥土 粘質 10YR5/4にぶい黄褐色泥土ブロック混 溝5
- 9 10YR5/2暗灰黄色砂泥 粘質 10YR2/3黒褐色マンガン粒多量混
- 10 10YR5/6黄褐色砂泥 10YR5/2灰黄褐色砂泥混、10YR2/3黒褐色マンガン粒多量混
- 11 10YR5/2灰黄褐色砂泥 微砂混 礫φ1~3cm少量混
- 12 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 粘質 礫φ1~3cm少量混
- 13 10YR5/2灰黄褐色 10YR4/1褐灰色砂泥 粘質
- 14 10YR5/3~10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 粘質 10YR3/4暗褐色マンガン粒少量混
- 15 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 礫φ1~5cm少量混
- 16 2.5YR4/2暗灰黄色粗砂 礫φ1~5cm少量混
- 17 2.5YR4/3オリーブ褐色~2.5YR5/3黄褐色砂泥 粘質
- 18 10YR5/2灰黄褐色泥土 粘質 10YR4/4褐色マンガン粒少量混
- 19 10YR4/2灰黄褐色泥土 粘質 10YR4/3にぶい黄褐色マンガン粒多量混
- 20 10YR4/2灰黄褐色泥土 粘質 10YR4/3にぶい黄褐色マンガン粒多量混
- 21 10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/4褐色砂泥 粘質 10YR3/4暗褐色マンガン粒多量混
- 22 10YR4/3にぶい黄褐色 10YR4/4褐色砂泥 微砂多量混
- 23 10YR4/2灰黄褐色砂泥 粘質 礫φ1~3cm少量混
- 24 10YR4/2灰黄褐色砂泥 粘質 礫φ1~3cm少量混
- 25 10YR4/2灰黄褐色 2.5YR4/2暗灰黄色泥土 10YR2/3黒褐色マンガン粒混
- 26 2.5YR5/2黄褐色砂泥 粘質 10YR3/3暗褐色マンガン粒少量混
- 27 10YR5/2~4/2灰黄褐色砂泥 粘質 7.5YR3/4暗褐色マンガン粒多量混
- 28 2.5YR5/2暗灰黄色粗砂 礫φ1~3cm中量混 溝32
- 29 10YR4/2灰黄褐色粗砂 礫φ1~3cm中量混 溝32
- 30 10YR4/2灰黄褐色砂泥 微砂多量混 溝32
- 31 2.5YR4/2暗灰黄色砂泥 粗砂混 礫φ1cm少量混 溝32
- 32 10YR5/4にぶい黄褐色微砂 砂混 粗砂混
- 33 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 粘質 10YR4/4褐色マンガン粒多量混
- 34 10YR4/2灰黄褐色 2.5YR4/2暗灰黄色泥土 10YR2/3黒褐色マンガン粒混
- 35 10YR4/3にぶい黄褐色 2.5YR4/3オリーブ褐色砂泥 10YR3/3暗褐色マンガン粒混 柱穴13
- 36 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 10YR3/3暗褐色マンガン粒混 柱穴13
- 37 10YR4/4褐色砂泥 10YR2/3黒褐色マンガン粒多量混 溝5
- 38 10YR4/4褐色砂泥 粘質 7.5YR4/6褐色マンガン粒多量混
- 39 10YR4/4褐色砂泥 粘質 7.5YR4/6褐色マンガン粒多量混
- 40 10YR4/4褐色砂泥 微砂混、2.5YR5/3黄褐色砂泥ブロック混
- 41 10YR3/4暗褐色細砂
- 42 10YR3/4暗褐色細砂 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥ブロック混 土坑41
- 43 2.5YR5/3黄褐色砂泥 粘質 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥砂混 土坑41
- 44 10YR5/4にぶい黄褐色微砂 砂混多量混
- 45 10YR3/3暗褐色砂泥 10YR4/4褐色マンガン粒多量混 柱穴31
- 46 2.5YR5/3黄褐色砂泥 柱穴31
- 47 10YR4/4褐色砂泥 粘質 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥ブロック多量混
- 48 10YR3/4暗褐色砂泥 10YR2/3黒褐色マンガン粒混、炭化物多い
- 49 10YR4/4褐色シルト 粘質 2.5YR4/3オリーブ褐色マンガン粒混
- 50 2.5YR5/3黄褐色泥土 粘質 10YR3/3暗褐色マンガン粒多量混
- 51 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 10YR3/3暗褐色マンガン粒多量混
- 52 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 10YR3/3暗褐色マンガン粒多量混
- 53 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 粘質 10YR2/3黒褐色マンガン粒多量混
- 54 10YR4/2褐色砂泥 粘質 10YR2/3黒褐色マンガン粒少量混
- 55 2.5YR4/4オリーブ褐色砂泥 粘質 10YR3/3暗褐色マンガン粒少量混
- 56 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 10YR2/2黒褐色マンガン粒少量混

図8 調査区断面図2 (1:50)

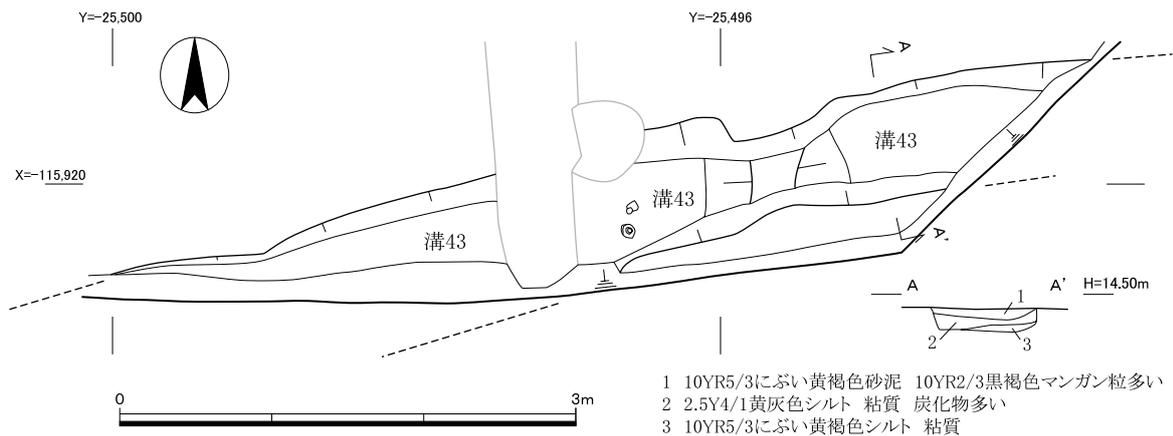


図9 溝43実測図 (1:50)

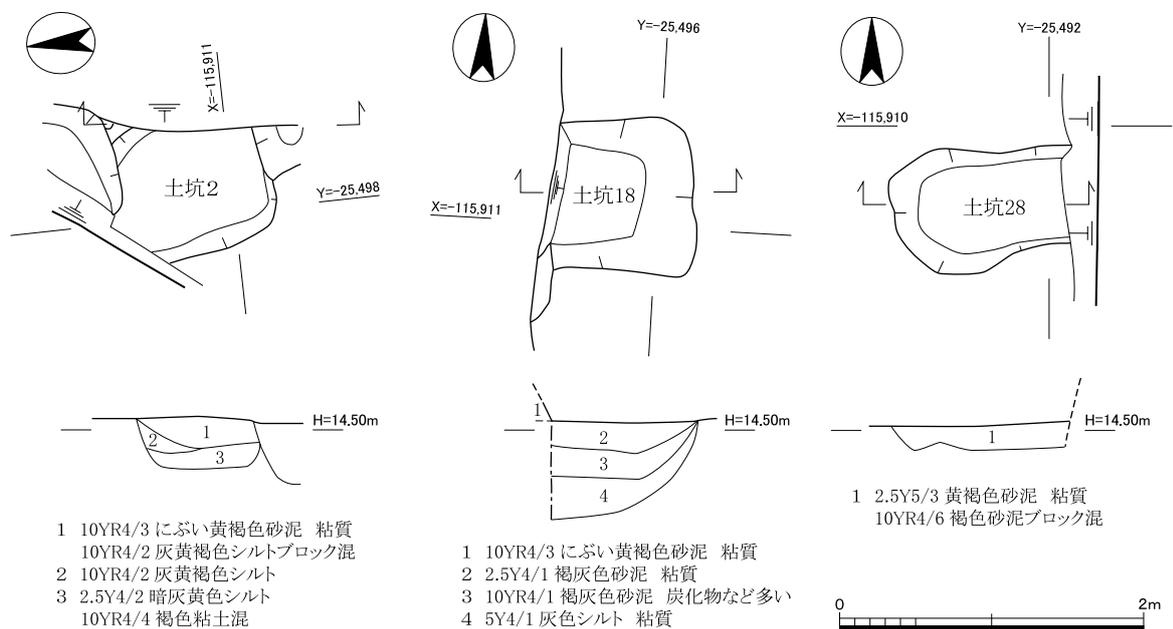


図10 土坑2・18・28実測図 (1:50)

土坑18(図10) 調査区中央北側で検出した土坑で、西肩は下水管のため未調査である。長軸1m、深さ0.6mある。埋土は褐灰色砂泥や灰色シルト層で、土師器皿、施釉陶器小碗が出土した。

土坑28(図10) 調査区北東で検出した土坑で、東肩は調査区外へ広がる。現存規模は長さ1.2m、幅0.9m、深さ約0.2mある。埋土は黄褐色砂泥層で施釉陶器碗が出土した。

土坑41(図7-断面図4・5) 調査区南東で検出した土坑で、南北に長い長方形を呈する。重機掘削時にほとんど削られ、底部がわずかに残存する。現存規模は、南北2.5m、東西1.5m、深さ0.1mある。埋土は2層に分けられ、2層から土師器皿、施釉陶器鉢・蓋、瓦などが出土した。江戸時代後期のものである。

堀12(図7・8-断面図8・9、図11) 調査区南西隅で検出した。調査区西端から約3m東に続き、南折する。西・南は調査区外に延びる。幅約3.0m、深さ約0.8mある。堀12の下層には78~84・88層の湿地状の流路堆積があり、そこを改修して造った堀の可能性が有る。堀12の北肩は

標高14.5mの**に**ぶい黄褐色砂泥層の65層、南西の肩部は73～75層である。72層は南西肩部の補修跡と考えられる。杭の跡など見られなかった。堀12の堆積土は、厚さ0.5mで、灰色泥土や腐植土の多く混じる灰黄褐色砂泥層の76・77・78層である。その後、褐灰色砂泥や**に**ぶい黄褐色砂泥の91・68～71層で埋め立てられた。遺物は、室町時代後期の遺物とともに、江戸時代初頭の土師器皿・焙烙、須恵器甕、瓦器羽釜、施釉陶器椀、焼締陶器甕、青磁椀、瓦、銭貨などが出土した。江戸時代初頭に埋められたものである。



図11 堀12 (北東から)

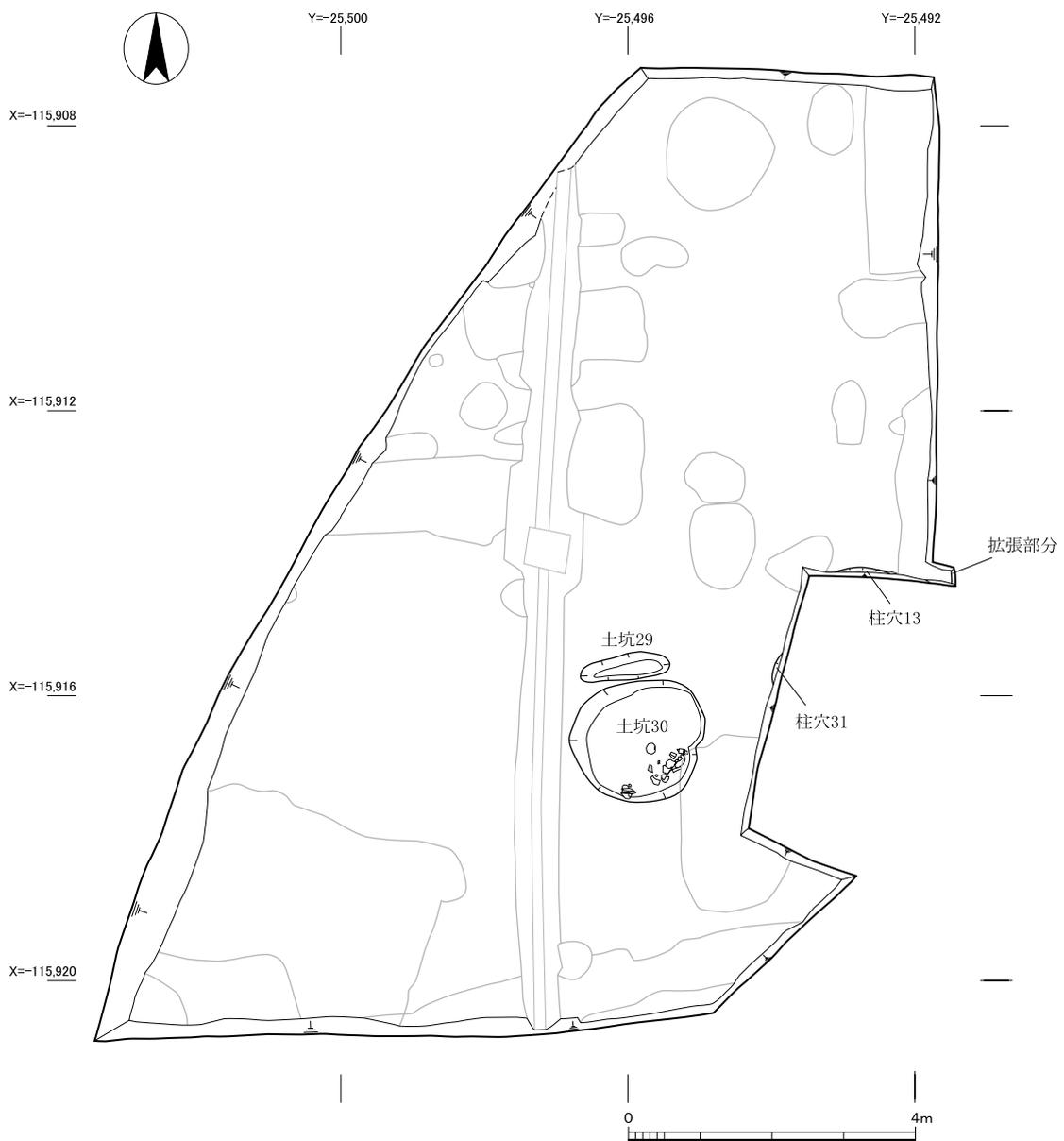


図12 遺構平面図 [室町時代] (1 : 100)

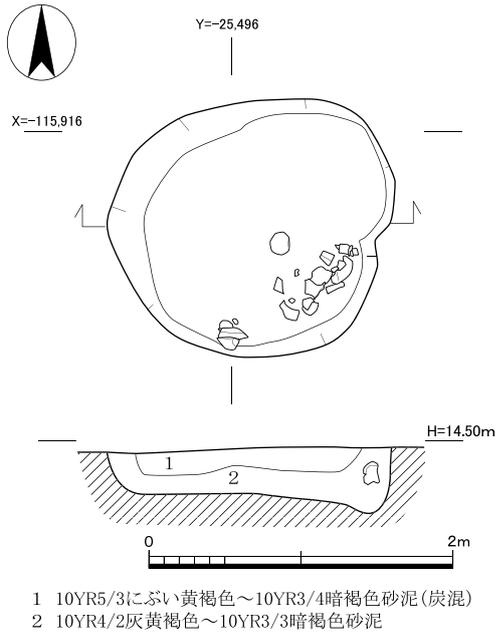


図13 土坑30実測図（1：50）

（4）室町時代の遺構（図12）

室町時代の遺構は、土坑29・30、柱穴13・31を検出した。

土坑29 調査区南東部で検出した東西に長い土坑で、東西約1.3m、南北約0.4m、深さ0.2mある。出土した土師質土器の播鉢と柱穴31のものが接合した。室町時代後期のものである。

土坑30（図13、図版1-2）土坑29に南接して検出した土坑で、平面形は歪な円形を呈する。径約1.9m、深さ約0.3mある。埋土は2層に分けられ、1層に炭が多く混入し多くの遺物が出土した。土師器皿・羽釜、瓦器ミニチュア羽釜、施釉陶器、焼締陶器播鉢、瓦などが出土している。室町時代後期のもの

のである。

柱穴13・31（図7-断面図3・4）調査区南東端の壁面で検出した柱穴である。柱穴13は幅0.65m、深さ0.45m、柱穴31は幅0.46m、深さ0.32m、どちらも中央部に長軸約0.1mの礎石状の石を据える。柱穴31からは土師質土器の播鉢や信楽産播鉢が出土した。

（5）長岡京期から平安時代の遺構（図14）

長岡京期から平安時代の遺構として、溝5、小穴20～22を検出した。

溝5（図7-断面図1～3、図版2）調査区東端の標高約14.5mで検出した南北溝で、南北は調査区外に延長する。幅約0.9m、深さ約0.25mある。調査区内では南北約6.8m分を検出した。調査区北端断面では東西両肩を検出した。西肩口はほぼ南北方向を示し、南北軸は北でわずかに西に振れている。断面形は、浅いU字型を呈する。埋土は3層（断面図37・7・8層）に分けられる。溝5の南半では、幅約0.4m、深さ約0.1m、南北約3.3mの間で土質の異なる土層（断面図37層）が堆積する。この土層から、平安時代前期の土師器皿・高杯脚部、須恵器杯・壺肩部が出土している。この溝は、長岡京左京東三坊大路東側溝の北延長上に位置している。長岡京期に掘削され、平安時代前期に埋没したものと考えられる。

小穴20～22 径約0.3～0.6m、深さ約0.2～0.3mある。埋土は溝5の断面図37層と近似し、平安時代の遺構と考える。土師器小片、炭片が出土している。

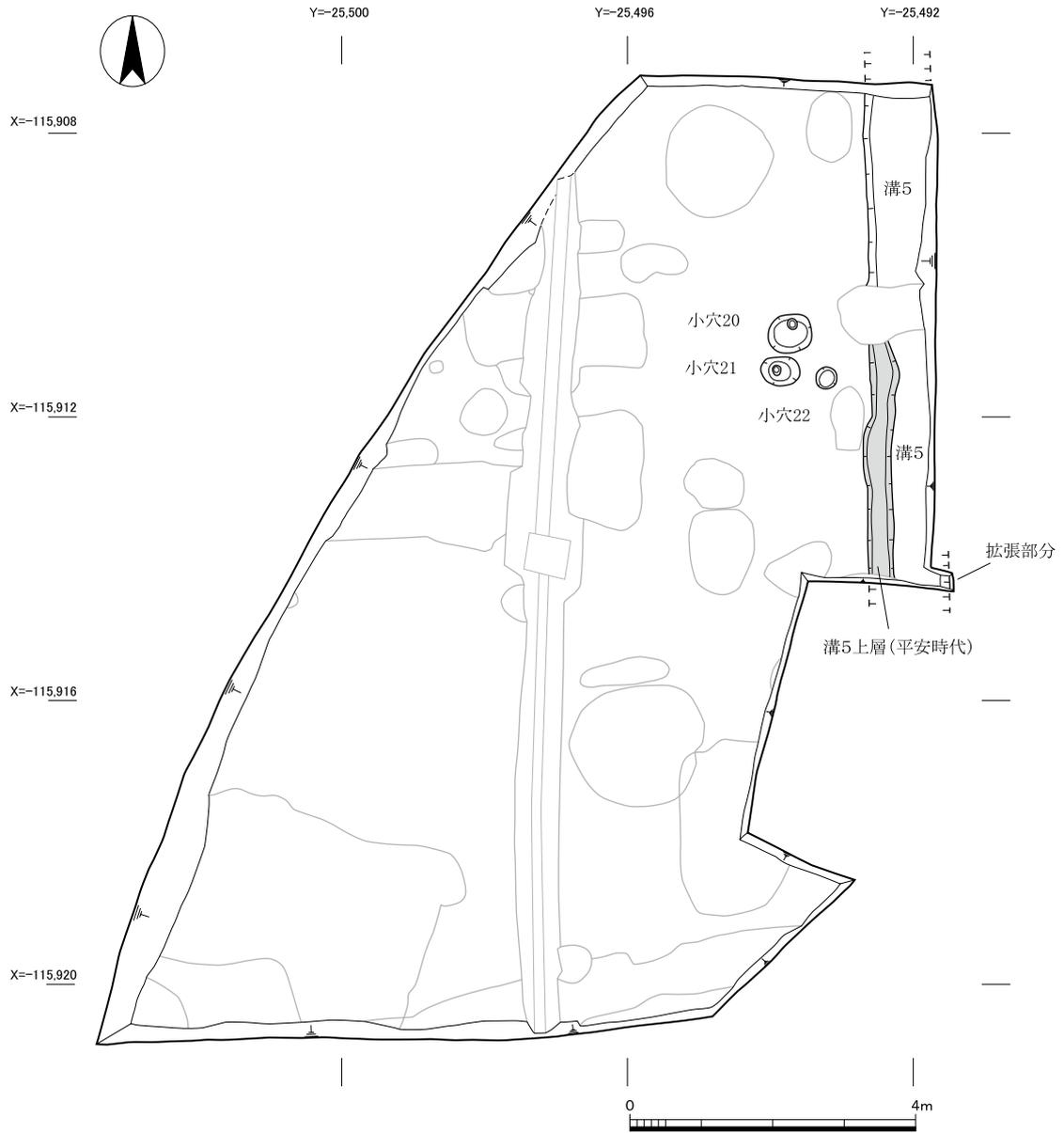


图14 遺構平面図 [長岡京期] (1 : 100)

4. 遺 物

(1) 遺物の概要

今回出土した遺物は、長岡京期から江戸時代に至る遺物が、整理箱で5箱出土した。内容は、土器類、瓦類、金属製品、木製品などがある。その大半は土器類で、次いで木製品が多い。全体的には室町時代から江戸時代の土器類や木製品の割合が大きく、長岡京期から平安時代の遺物は少ない。

長岡京期から平安時代の遺物には、土師器皿・高杯、須恵器杯・壺がある。いずれも溝5から出土した。また、他の遺構に混入して須恵器・緑釉陶器片が出土した。

室町時代の遺物には、土師器皿、瓦器羽釜、施釉陶器、焼締陶器の信楽焼・丹波焼播鉢、輸入磁器の青磁椀、銭貨の皇宋通寶などがある。また、江戸時代の堀12に混入して、土師器皿、施釉陶器、焼締陶器、輸入磁器などがある。

江戸時代の遺物には、土師器皿・つぼつぼ、焼締陶器の信楽焼播鉢、施釉陶器の唐津蓋、肥前磁器（染付）の椀、木製品の漆器・曲物・板材・杭先、土師質土器の焙烙、銭貨の寛永通寶などがある。江戸時代前期の堀12からは、江戸時代初頭の土師器皿、土師質土器の焙烙、施釉陶器の唐津椀、江戸時代中期の溝43からは土師器皿、施釉陶器の唐津椀、焼締陶器の信楽播鉢などが出土した。

(2) 土器類

出土遺物の中で、土器類が多くを占める。しかし、小片が多く、図示できるものは少量である。ここでは、長岡京期から江戸時代の土器を報告する。時代別の出土量は、長岡京期から平安時代の土器類はごく少量で、室町時代が約3割、江戸時代が約7割を占める。

表3 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
長岡京期 ～平安時代	土師器、須恵器、緑釉陶器		土師器2点、須恵器1点		
室町時代	土師器、瓦器、施釉陶器、 焼締陶器、輸入磁器、銭貨		土師器5点、土師質土器1点、 瓦器1点、焼締陶器1点、輸入 磁器1点、銭貨1点		
江戸時代	土師器、瓦器、施釉陶器、 焼締陶器、染付、輸入磁器、 瓦、銭貨、木製品		土師器4点、土師質土器2点、 瓦質土器1点、施釉陶器4点、 銭貨2点、木製品2点		
合 計		7箱	28点（2箱）	0箱	5箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より2箱多くなっている。

1) 長岡京期から平安時代 (図15、図版3)

溝5 (1~3) 1は、土師器皿である。口縁端部のみの磨滅した小片で、口径・調整などは不明である。口縁部が屈曲し、端部を小さくつまみ上げている。9世紀後半と考える。2は、土師器高杯である。残存高16.5cm。脚部は断面九角形を呈し、浅い中空部は下方へ向かって広がる。裾部を欠き、杯部底面が残存する。脚部は棒状の芯に粘土を巻き付け、外面を面取りする。調整は磨滅して不明。断面九角形は長岡京期よりもやや新しい傾向を示している。3は、須恵器壺で、肩部と考える。直径約18cm、残存高約6cm。わずかに自然釉が認められる。内外面ヨコナデされている。1~3は、すべて溝の第1層から出土した。

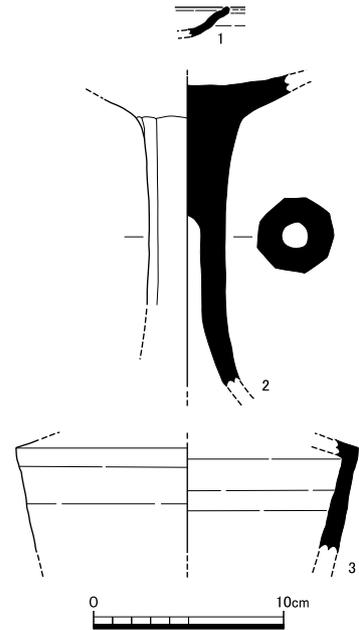


図15 土器実測図1 (1:4)

2) 室町時代 (図16、図版3)

土坑30 (4~11) 4~8は、土師器皿である。4は、口径7.1cm、器高1.5cmある。5~8は小型皿で、口径9~10cm、器高1.5~1.9cmある。いずれも赤色系小型皿である。磨滅しているが、調整は、底部外面はオサエ、内面はナデ、口縁部内外面はヨコナデを行う。6・7は、全体が二次焼成を受けたのかすすけている。8は、口縁部が炭化する灯明皿である。時期は室町時代後期。9は、瓦器ミニチュア羽釜である。外径12.0cm、内径4.2cm、残存高6.0cmある。釜体部はロクロ成形、鏝部分を接合するときの指の跡が内面に残る。外面はナデ調整する。内外面は黒色を呈し、外面上半はやや銀化している。10は、焼締陶器の信楽産播鉢である。口径29.0cm、残存高7.0cmある。外方に小さく折れ曲がる口縁で、内外面横ナデ調整、播目は4本1単位である。11は、土師質土器羽釜である。ふくらんだ胴体中段に鏝を貼り付けたもので、鏝径27.2cm、残存高16.3cmある。口縁部は屈曲して外反し、端部はつまみ上げる。屈曲部外面には強いナデを施す。外面下段はナデ、中段から口縁部はナデ、内面下部はナデ、上部は粗いハケメ調整する。内面部は炭化物、外面は下部から口縁部まで煤が付着する。

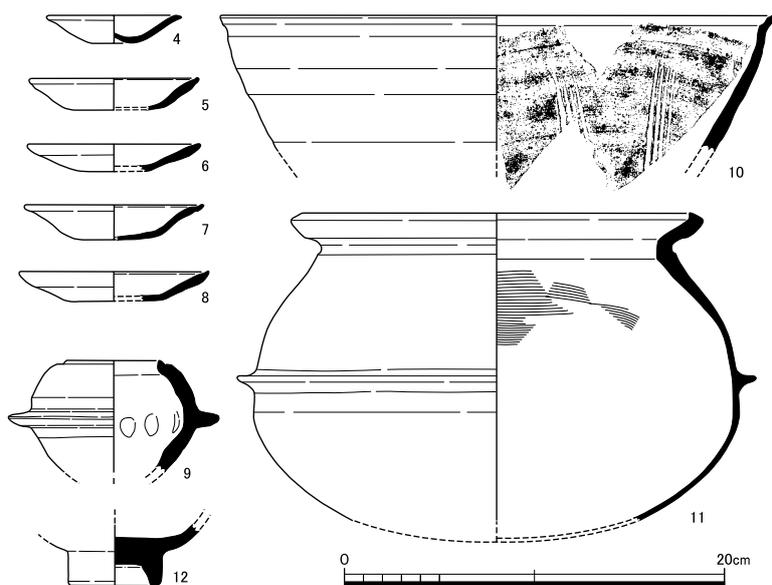


図16 土器実測図2 (1:4)

堀12 (12) 青磁碗の底部片である。全面にオリーブ灰色の釉を施す。焼成は良好。

底部内面中央に1.8cm角の枠取りの陽刻印がある。釉が厚く明確でないが、「福」・「龍」もしくは「花」と思われる。龍泉窯産であろう。時期は室町時代。江戸時代の堀12から混入して出土した。

3) 江戸時代 (図17、図版3)

堀12 (13~16) 13・14は、土師器皿である。13は中型皿で、口径9.2cm、器高1.8cmある。口縁部は外上方にのびる。底部外面はオサエ、底部内面はナデ、口縁部内外面はヨコナデ調整する。口縁部に2箇所煤が付着する灯明皿である。14は大型皿で、口径11.0cm、残存高2.2cmある。底部から口縁部が少し屈曲して開き、底部内面に圈線がつく。江戸時代初頭のものである。15は、土師質土器焙烙である。口径32.0cm、残存高7.5cmある。体部は台型成形し、口縁部は継ぎ足す。口縁部は外反し、端部はつまみ上げる。体部内面は粗いハケメ調整を施す。外面には全面、煤が付着する。16は、施釉陶器の唐津産椀である。口径10.2cm、残存高5.0cmある。褐色の素地をロクロ成形する。上半部はロクロ痕を粗く残す。外面下部を除き灰釉をかけ、灰オリーブから灰白色を呈する。

土坑2 (17) 土師器中型皿である。直径9.5cm、器高1.9cmある。口縁部は外上方にのびる。外面はオサエ、底部内面はナデ、口縁部内外面はヨコナデ調整する。口縁端部の数箇所に煤が付着する灯明皿である。江戸時代前期。

溝43 (18~21) 18は、土師器皿である。手捏ねの小型皿で、口径5.5cm、器高1.7cmある。内

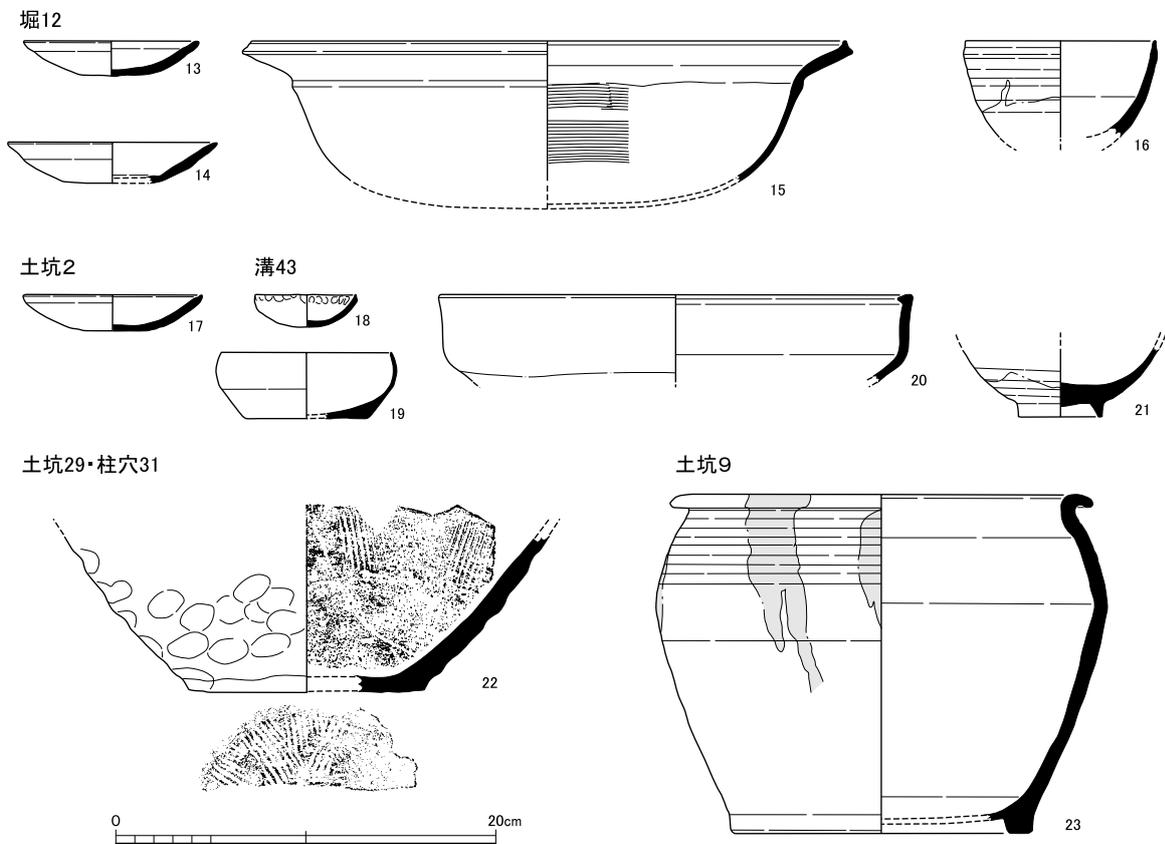


図17 土器実測図3 (1:4)

面はナデ調整するが、内外面はオサエ痕が強く残る。19は、瓦質土器小鉢で、口径9.5cm、器高3.5cmある。ロクロ調整で、底部内面は丸みをおび、底面から内湾して口縁端部は丸くおさめる。全体は丁寧に調整しているが、底部外面には糸切り跡がのこる。内外面とも黒色を呈する。20は、施釉陶器盤で、口径25.0cm、残存高4.5cmある。体部は内湾し、上面が平坦な口縁をもつ。暗褐色の素地の口縁上面から体部外面まで褐釉がかけられている。唐津産と思われる。21は、施釉陶器碗で、口縁部を欠く。削り出し高台で、体部外面下段はヘラケズリを行う。内面は透明釉、体部外面下段まで銅緑釉をかけ流す。唐津産であろう。

土坑29・柱穴31(22) 土師質土器播鉢である。残存径25.4cm、残存高8.5cmある。播目は8本1単位で、底部内面にも放射状に播目を施す。調整は体部内外面はヨコナデ、体部外面はオサエ痕が強く残る。土坑29と柱穴31から出土した破片が接合した。産地は不明。

土坑9(23) 施釉陶器甕である。口径22.2cm、最大径23.7cm、器高18.0cmある。ロクロ成形で、高台は貼り付けてケズリ調整する。肩部外面にはロクロ痕を残し、口縁から体部下段まで灰釉をかけ流し、その上から底面以外の内外面に透明釉を重ね掛ける。灰釉は濃緑色から褐色を呈する。瀬戸産。江戸時代後期。

(3) 瓦類

瓦類は少量出土した。大半は攪乱や江戸時代の土坑から出土したが、破片は小片が多く、図示できるものはない。

(4) 金属製品 (図18・19)

銭貨(金1～金3) 3枚出土した。内訳は北宋銭1枚、寛永通寶2枚である。

金1は「皇宋通寶」で、初鑄は1039年である。直径は2.45cm、厚さは0.13cm、重さは3.20gある。堀12の底部から出土した。

金2・3は寛永通寶で、金2の直径は2.25cm、厚さは0.10cm、重さは1.90gある。金3の直径は2.40cm、厚さは0.10cm、重さは2.02gある。どちらも遺構検出中に出土した。

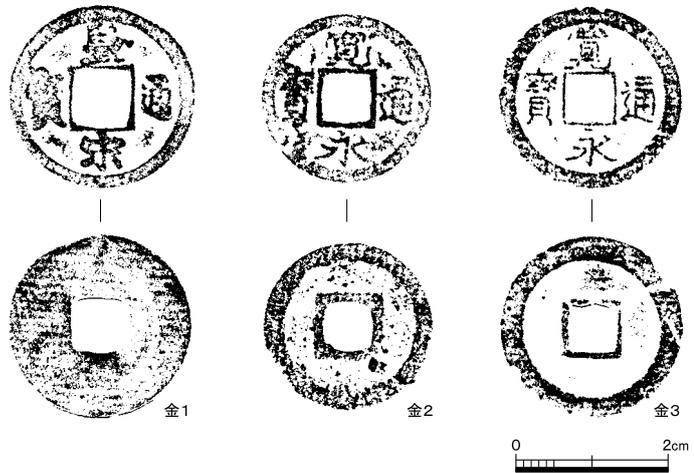


図18 銭貨拓影(1:1)

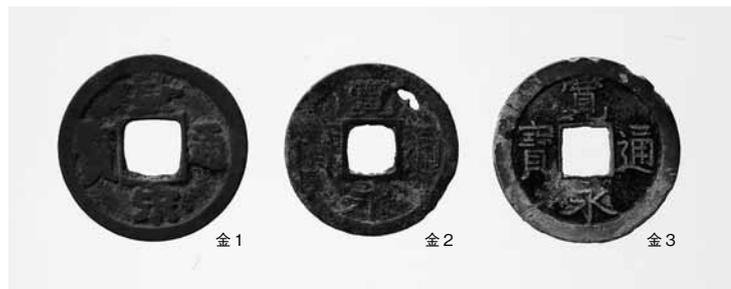


図19 銭貨

(5) 木製品 (図19)

木製品には、漆器類、曲物底板、板材、杭などがある。堀12や江戸時代の土坑から出土した。ここでは、堀12から出土した遺物を掲載する。

堀12 (木1・木2) 木1は、曲物底部である。直径7.7cm、厚さ0.2cmある。周縁部は斜めに面取りする。材質はヒノキ。76層から出土した。江戸時代初頭。

木2は、漆器の折敷である。折敷側面の板部分で左端は薄く削られる。残存長17.1cm、幅2.6cm、厚さ0.3cmある。外面は黒漆、内面は黒漆の上に朱色の漆を重ね塗りする。朱漆は一部剥離し、黒漆が露出する。薄く削られた左端は漆が付着しない接合部分である。また、内面下端0.4cmは黒漆がつかず底板との剥離跡が見られる。材質はヒノキ。下層の87層から出土した。江戸時代初頭。

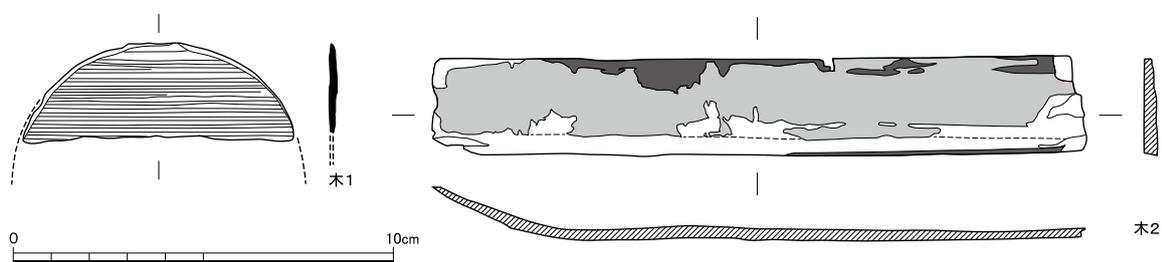


図20 木製品実測図 (1 : 2)

5. まとめ

今回の調査で、都市計画道路3・3・132向日町上鳥羽線に関する調査は終了した。これまでのまとめとして、2010年度その3調査(表1-18)の遺構変遷図¹⁾に、2001年度¹⁾の他団体の調査(表1-13)、2011年度の調査(表1-19)、今回の調査結果を付け加えて再掲載する(図21・22)。

縄文時代の遺構・遺物は検出できなかった。2010年度その3調査(表1-18)では、調査区東端の標高14.0~13.7mで縄文時代中期から後期の遺構・遺物を検出した。今回は、地表下約0.9mの標高14.2mで炭をやや多く包含する土層を確認したにとどまる。今後の周辺の調査に期待される。

また、今回は弥生時代の遺構を検出することはできなかったが、他団体の2001年度の調査(表

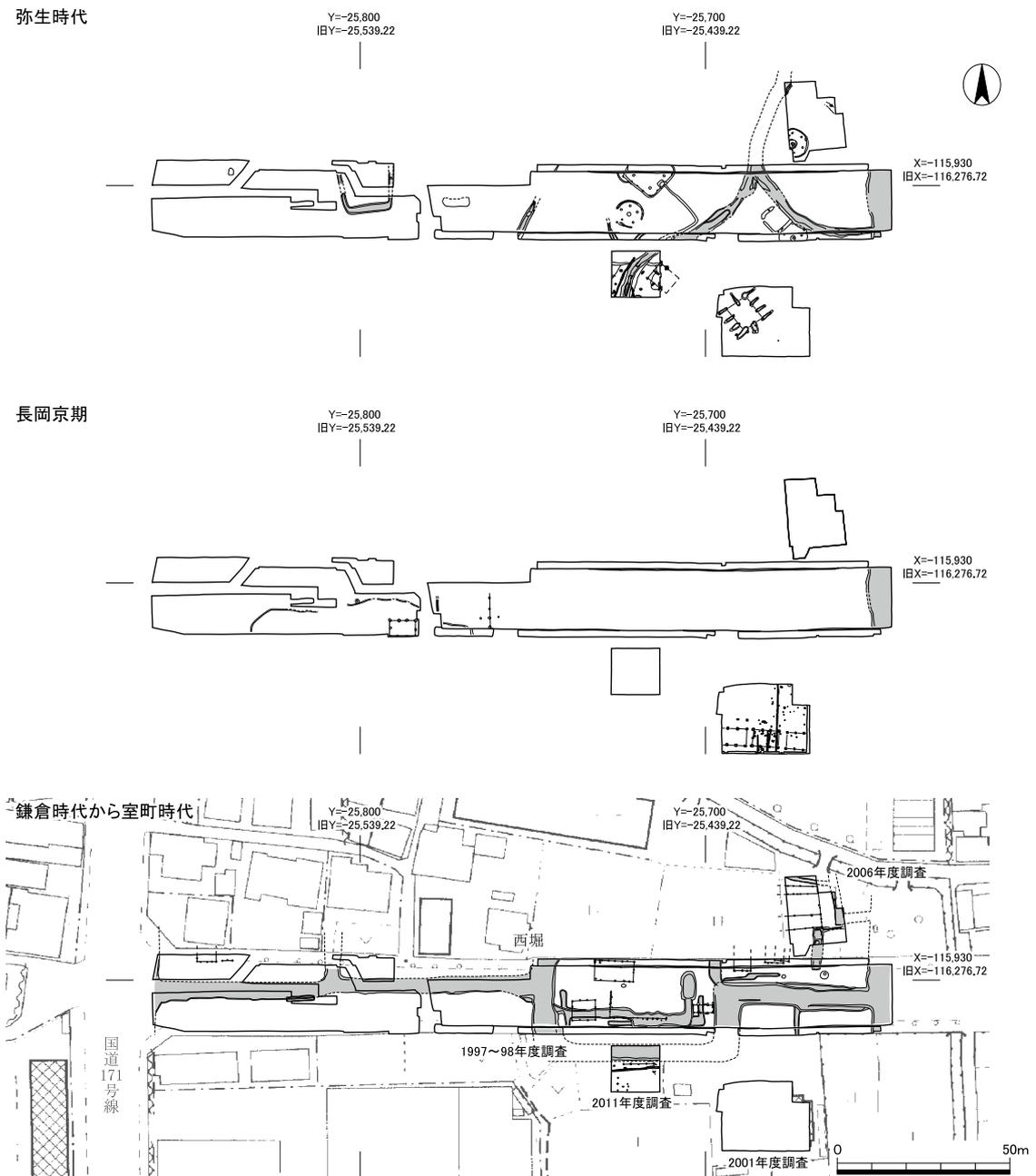


図21 遺構変遷図 [西半] (1 : 2,000)

1-13) では弥生時代後期の大型掘立柱建物1棟と土坑1基を検出した。この建物は3間×2間の掘立柱で、桁行約8.4m、梁行約6.4mあり、棟持柱を持つ高床式建物である。柱穴などから、柱根、弥生土器、石器が出土している。建物柱堀形から出土した土器は、堀形に残存していた柱材の年輪年代法によって、1世紀後半と測定されている。さらに、2011年度の調査(表1-19)では、北東から続く溝の延長部、掘立柱建物、土坑が検出され、弥生土器が出土し、溝の南側の集落の広がりが見られた。

長岡京期から平安時代の溝5は、長岡京期の南北大路である東三坊大路東側溝を京北限の北京極大路から約220m北に延長した部分にあたる。2010年度その3調査(表1-18)では、溝5より約120m東で南北道の東四坊坊間西小路の東・西側溝の延長部の位置から溝が検出されている。

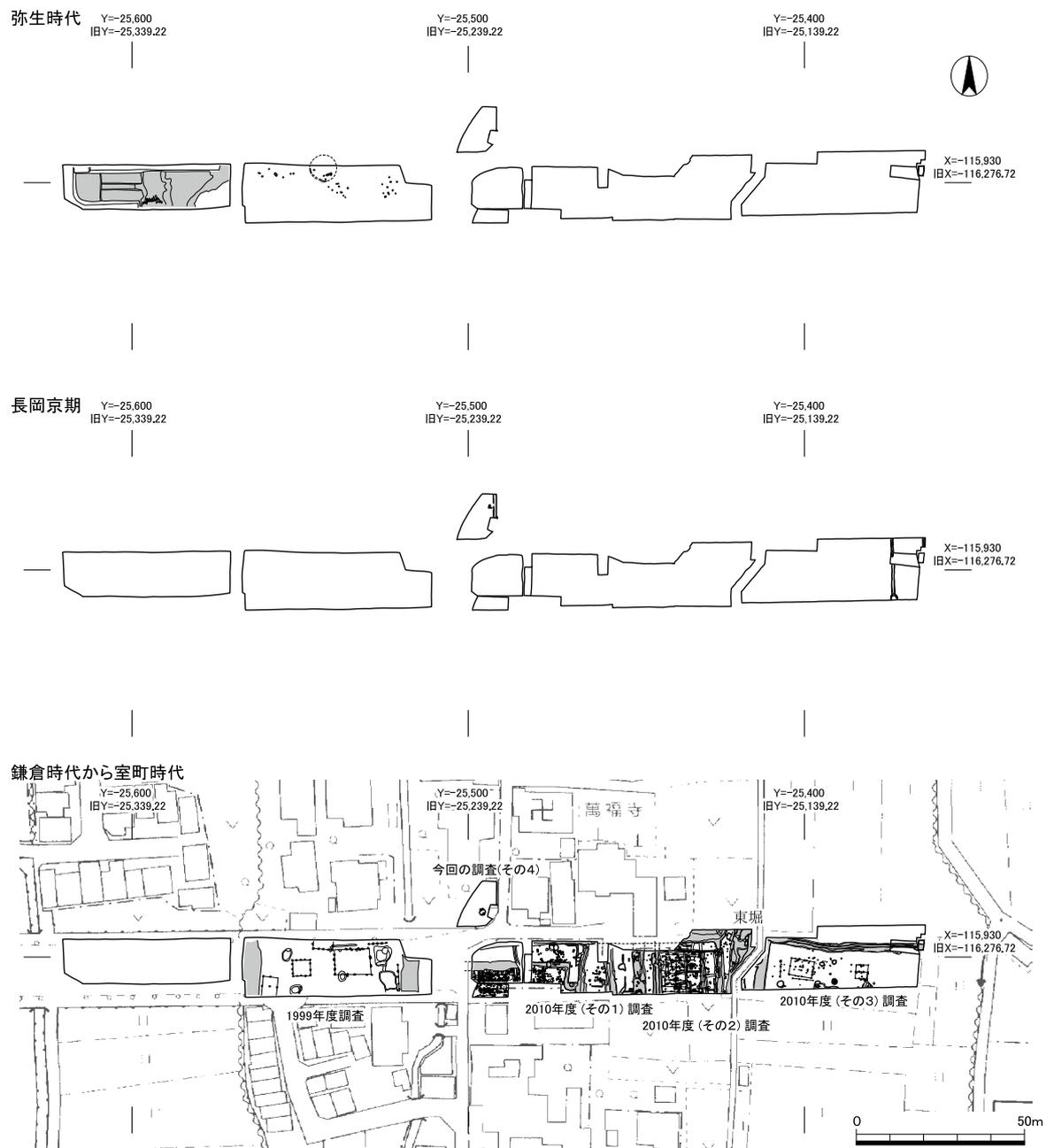


図22 遺構変遷図 [東半] (1:2,000)

1997～98年度の調査（表1－11）と今回の調査の結果から、長岡京の左京域において、現在の長岡京の推定北限より北に条坊が拡張する可能性が高くなったと考えられる。

中世の遺構は、遺構変遷図で見られるように、大藪城跡の西限と東限の堀の間では、小規模な堀で区画された宅地が集中する状況がうかがえた。しかし、今回の調査では、室町時代の遺構は少なく、調査区南東部分で土坑29・30、柱穴13・31を検出したにとどまる。柱穴には礎石があるが、建物は復元できていない。また、2011年度の調査（表1－19）では、1997～98年度調査（表1－11）で検出された中世の溝の延長部分や柵などが検出した。

江戸時代の遺構は、江戸時代前期の堀12、江戸時代中期の溝43、土坑2・18、江戸時代後期の土坑28・41などを検出した。堀12は江戸時代初頭には埋められ、大藪街道の側溝と考えられる溝43が造られる。西側の現在の水路も調査区西でクランク状に曲がり南に流れていることから、堀12は水路の前身であった可能性がある。溝32の時期は不明確であるが、溝43に続くと推測でき、大藪街道の西側溝の前身と考えられる。

今回の調査によって、中世から続く大藪街道沿いの土地利用の一端が明らかとなった。周辺での調査が進めば、中世以降の集落の変遷のより詳しい状況が解明されると期待できる。

註

- 1) 図の解説は、「まとめ」『大藪遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告 2010-18 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年 を参照。

版 圖



1 室町時代全景（北から）



2 土坑30遺物出土状況（北東から）



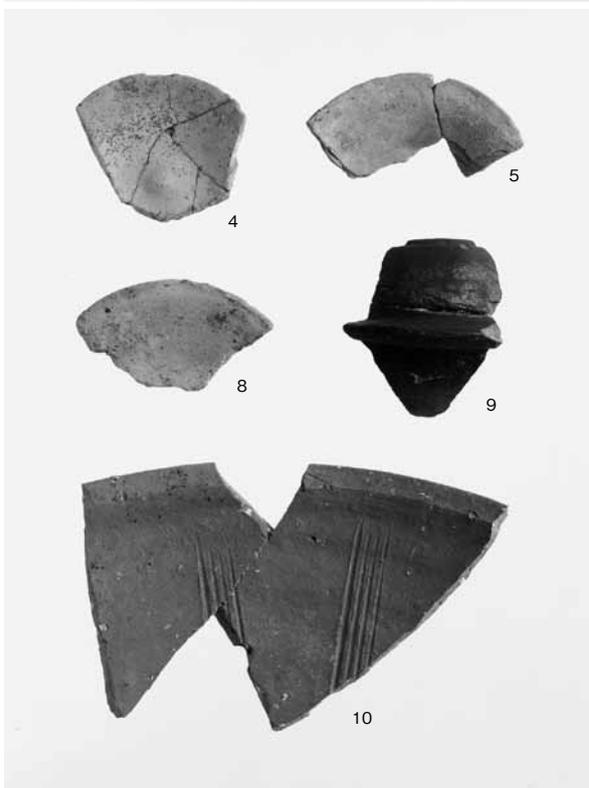
1 溝5 (北から)



2 溝5 遺物出土状況 (北から)



3 溝5 断面 (南西から)



出土土器

11

21

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおやぶいせき・おおやぶじょうあと							
書名	大藪遺跡・大藪城跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2012-6							
編著者名	尾藤徳行							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2012年9月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおやぶいせき 大藪遺跡	きょうとしみなみく 京都市南区	26100	773	34度 57分 17秒	135度 43分 15秒	2012年7月 9日～2012 年8月2日	102.1m ²	道路整備 事業
おおやぶじょうあと 大藪城跡	くぼおおやぶちやうちない 久世大藪町地内		778					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大藪遺跡	集落跡	長岡京期 ～平安時代	溝、小穴	土師器、須恵器、緑釉 陶器				
大藪城跡	平城跡	室町時代	土坑、柱穴	土師器、瓦器、施釉陶 器、焼締陶器、輸入磁 器、銭貨				
		江戸時代	堀、溝、土坑、小 穴	土師器、瓦器、施釉陶 器、焼締陶器、輸入磁 器、染付、瓦、銭貨、 木製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-6

大藪遺跡・大藪城跡

発行日 2012年9月28日

編集行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961